太田市の中世遺物

（新田荘・陶磁器編）

■円福寺伝新田氏累代の墓　■長楽寺　■普光庵跡　■東照宮境内中世古墓　■新田荘出土　■伝新田義重の墓

太田市教育委員会

円福寺　太田市別所

（史跡新田荘遺跡　円福寺境内）

円福寺は、新田氏第４代の新田政義が開基し、京都御室の仁和寺の阿闍梨 静 竜を開山として開かれた古義真言宗の寺です。

新田政義は、寛元２年（1244）京都大番役として在京中、幕府の許可を得ず突然出家したため、幕府の咎めを受けて所領を没収され、由良郷別所に蟄居することになりました。円福寺が開かれたのはその頃と考えられます。

境内には、群馬県内第３位の規模を誇る別所茶臼山古墳が存在し、その前方部東裾に新田氏累代の墓と伝えられる20基余りの天神山凝灰岩製をはじめとする多層石塔・五輪塔群があり、そのうちの五輪塔１基には、元亨４年（1324）に「沙弥道義」（新田義貞の祖父新田基氏の法名）が72歳で逝去したことが記されています。

昭和54年には、墓地の保存整備に伴い、発掘調査が実施され、白磁四耳壺などの多数の骨蔵器と供に骨の塊・板碑・経石などが出土しています。

別所茶臼山古墳　奥に円福寺　（西から）昭和60年撮影

「沙弥道義」銘　五輪塔の地輪　元亨４年（1324）

伝新田氏累代の墓（整備後）　（北から）

発掘調査中の伝新田氏累代の墓　（北から）昭和54年撮影

白磁 四耳壺　13世紀～14世紀（高さ25.0㎝）

伝新田氏累代の墓

古瀬戸 灰釉瓶子　13世紀（高さ27.5㎝）

常滑 自然釉甕　13世紀（高さ29.6㎝）

焼き締め陶器 自然釉壺　12世紀～13世紀（高さ20.5㎝）

在地産 壺　13世紀～14世紀（高さ26.0㎝）

在地産 壺　13世紀～14世紀（高さ21.6㎝）

在地産 壺　13世紀～14世紀（高さ23.0㎝）

在地産 壺　13世紀～14世紀（高さ22.0㎝）

在地産 壺　13世紀～14世紀（高さ22.4㎝）

在地産 壺　13世紀～14世紀（高さ21.5㎝）

常滑自然釉甕出土状況

焼き締め陶器壺出土状況

在地産壺出土状況

在地産壺出土状況

長楽寺　太田市世良田町

（史跡新田荘遺跡　長楽寺境内）

長楽寺は、新田氏の祖義重の子徳川義季を開基とし、日本臨済宗開祖栄西の高弟栄朝を開山として、承久３年（1221）に創建された、東日本最初の禅寺（東関最初禅窟）です。ただし禅の専門道場でなく、顕教密教を兼修したので、三宗兼学の寺として知られました。

室町時代の初期に日本十刹の制が成立すると長楽寺は十刹の第７位となりました。しかし、戦国時代になると、寺運は著しく衰退しました。

天正18年（1590）、徳川家康は小田原北条氏討滅の功により、豊臣秀吉より関東の地を与えられました。家康は、天海僧正を祖先開基の寺である長楽寺の住職に任じて、寺の復興にあたらせ、寺領百石を与えました。天海は当寺を臨済宗から天台宗に改め、境内を整備し、伽藍を修復し、末寺七百余ヶ寺を擁する大寺院に成長させました。天海は、同時に日光輪王寺の住職であったので、日光東照宮が改築されるにあたり、元和年間造営の社殿の一部を長楽寺の境内に移し、東照宮を勧請しました。幕府は社領として二百石を与え、長楽寺をその別当寺として管理と祭祀にあたらせました。

長楽寺・東照宮周辺航空写真　（東上空から）昭和60年撮影

普光庵跡　太田市世良田町

（史跡新田荘遺跡　東照宮境内）

普光庵は、長楽寺第５世月船琛海のために、同寺第11世牧翁了一が建てた塔所です。月船琛海は、弘安５年（1282）に長楽寺住職となり、在院26年間に多くの高僧を世に送ると共に、長楽寺の基礎を確立した名僧です。徳治２年（1307）京都東福寺第８世となり、翌年の延慶元年（1308）東福寺において没しました。朝廷より「法照禅師」の諡を賜りました。その塔所は、東福寺に営まれたものを正統庵といい、牧翁了一によって分骨され、長楽寺に営まれたものを普光庵と称しました。普光庵はその後全く不明となっていましたが、昭和12年９月、落雷によって枯れ死した老杉の根を掘った際、月船琛海の石櫃と共に６人の弟子の骨蔵器（壺）が発見されました。普光庵は、禅宗の共同葬に習い、月船琛海の高弟６人の遺骨を、その塔側に埋葬した普同塔であることがわかりました。（弟子の骨蔵器６点の内、２点は現在行方不明です。）

普光庵跡　月船琛海石櫃出土状況　（昭和12年9月）

普光庵跡　弟子６名の骨蔵器出土状況　（昭和12年9月）

現在の普光庵跡　（東から）

普光庵跡出土

古瀬戸 灰釉三耳壺　14世紀前葉
（月船琛海骨蔵器）　（高さ15.5㎝）

月船琛海墓 石櫃の蓋　（高さ30.7㎝）

古瀬戸 灰釉四耳壺　14世紀前葉
（月船琛海弟子骨蔵器）　（高さ35.0㎝）

古瀬戸 灰釉四耳壺　14世紀前葉
（月船琛海弟子骨蔵器）　（高さ25.4㎝）

古瀬戸 灰釉瓶子　14世紀前葉
（月船琛海弟子骨蔵器）　（高さ30.0㎝）

古瀬戸 灰釉瓶子　14世紀前葉
（月船琛海弟子骨蔵器）　（高さ27.3㎝）

長楽寺の伝世品

青磁 袴腰香炉　13世紀～14世紀
（高さ10.2㎝）

青磁 耳付花瓶　（高さ26.0㎝）

青磁 花瓶　（高さ25.5㎝）

東照宮境内中世古墓

太田市世良田町

（史跡新田荘遺跡　東照宮境内）

昭和44年、東照宮の社殿保存修理工事に伴い実施した防災施設工事の際、本殿と拝殿（はいでん）の間の北側から常滑甕・在地産片口鉢２点が出土し、拝殿の北側から産地不明壺と在地産壺２点が出土しています。出土地点は、普光庵から発展した長楽寺の別院である真言院の境内であったと考えられます。真言院は、灌頂（かんじょう）のための専門道場であり、台密（天台宗に伝わる密教）法流を伝える中心の塔頭（たっちゅう）でした。天海僧正により長楽寺が臨済宗から天台宗へ改宗したときに廃され、その跡地に東照宮（日光東照宮の旧奥社拝殿を長楽寺の境内に移築）が勧請されました。東照宮境内に真言院井戸が残っています。

※塔頭（たっちゅう）＝寺院の敷地内にある子院のことをいう。
本来は、禅宗において、祖師や　大寺の高僧の死後に、その弟子が師の徳を慕って、墓塔の頭（ほとり）、またはその敷地内に建てた小院のことをいう。
※灌頂＝主に密教で行う、頭頂に水を灌ぎ、正統な継承者とする為の儀式。

真言院井戸
（東から）

常滑 自然釉甕　13世紀
（高さ27.1㎝）

在地産 壺　13世紀～14世紀
（高さ22.3㎝）

産地不明 壺　14世紀
（高さ22.2㎝）

在地産 壺　13世紀～14世紀
（高さ16.0㎝）

在地産 片口鉢
下 同上墨書銘　14世紀前葉（高さ10.2㎝）
「元応２年（1320）庚申７月」

在地産 片口鉢　14世紀前葉
（高さ11.0㎝）

土鍋・土釜（新田荘世良田郷出土）

在地産 内耳土鍋　14世紀後葉～15世紀前葉
世良田町出土　（高さ16.7㎝）

在地産 内耳土鍋　14世紀後葉～15世紀前葉
世良田町出土　（高さ17.0㎝）

在地産 内耳土鍋　14世紀後葉～15世紀前葉
世良田町出土　（高さ17.1㎝）

在地産 内耳土鍋　14世紀後葉～15世紀前葉
世良田町出土　（高さ17.0㎝）

在地産 土釜　14世紀後葉～15世紀前葉
世良田町出土　（高さ16.3㎝）

在地産 土釜　14世紀後葉～15世紀前葉
世良田町出土　（高さ15.5㎝）

在地産 内耳土鍋　15世紀後葉～16世紀前葉
世良田町　上新田Ⅱ遺跡　（高さ17.5㎝）

在地産 内耳土鍋　15世紀後葉～16世紀前葉
世良田町　上新田Ⅱ遺跡　（高さ16.0㎝）

在地産 内耳土鍋　15世紀後葉～16世紀前葉
世良田町　上新田Ⅱ遺跡　（高さ15.5㎝）

※入子鍋＝同形で大きさの異なる鍋を順に組み入れるように作ったもの。収納するのに便利であり、大きさによる使い分けができる。

上新田Ⅱ遺跡 内耳土鍋
（上３点の入子の状況）

在地産 内耳土鍋　中世
世良田町　上新田Ⅱ遺跡　（高さ18.4㎝）

鉄製 内耳鍋　室町時代
世良田町　上新田遺跡（新田館跡）　（高さ20.0㎝）

同左 鉄製 内耳鍋　（上から）
（径35.0㎝）

※内耳鉄鍋と内耳土鍋＝内耳鉄鍋は、平安時代末に出現し、内耳土鍋は、14世紀後半に出現する。形や内側に耳をつける点が共通している。鉄鍋を模倣して土鍋が作られたと考えられる。

伝新田義重の墓　太田市徳川町

新田義重の子義季は、新田荘の徳川・世良田などの郷を譲られ、徳川郷に館を造り、徳川義季と名乗ったといわれます。徳川館内の宝塔は、天神山凝灰岩製で相輪は失われていますが、高さ110㎝です。地元では新田義重の墓と伝えられ、昭和45年の墓地整理の際に、塔下より古瀬戸四耳壺が出土しています。

伝新田義重の墓　（北東から）

古瀬戸 灰釉四耳壺　13世紀前葉（高さ22.0㎝）

古瀬戸 灰釉四耳壺　13世紀後葉（高さ25.0㎝）

新田荘内出土

常滑 大甕　新田村田町地内多加良　（高さ57.3㎝）13世紀中葉

古瀬戸 鉄釉印花文合子　14世紀前葉（高さ5.8㎝）
新田木崎町　花園遺跡南ケ丘

古瀬戸 鉄釉四耳壺　15世紀
新田中江田町　旧来迎寺墓地　（高さ27.5㎝）

古瀬戸 灰釉水滴　14世紀
世良田町　歌舞妓遺跡　（高さ3.0㎝）

古瀬戸 鉄釉水滴　14世紀
世良田町　上新田遺跡（新田館跡）　（高さ3.9㎝）

太田市教育委員会文化財課
〒370-0495群馬県太田市粕川町520
TEL0276-20-7090　FAX0276-52-6080
印刷　平成23年３月
（埋蔵文化財保存活用整備事業）